

祇園祭 鷹山 復興のための基本設計

放鷹

公益財団法人 鷹山保存会

二〇一八年六月

祇園祭 鷹山 復興のための基本設計

放鷹

公益財団法人 鷹山保存会

二〇一八年六月

題字
池田恭子

往時の鷹山(復原図)



作図 中川未子 (よろずでざいん)

ご挨拶

「鷹山」は文政9年（1826）、大風雨の被害を受けて翌年より「休み山」となり、更に蛤御門の変（禁門の変）による元治の大火で大半の物が失われ、今日に至りました。しかしながら、お町内に復興の気運が芽生え、数年前からお囃子も復活し、平成28年（2016）には公益財団法人鷹山保存会が設立され、更に同年4月より公益財団法人祇園祭山鉾連合会に加盟されました。

同年6月より祇園祭山鉾連合会では、鷹山の歴史的変遷と失われる直前の鷹山の姿を探るべく、学識経験者・各種専門家を中心とした「鷹山調査委員会」を立ち上げるとともに、それと並行して、復興に向けた基本設計を策定する取組を始めました。すでに、平成30年3月には、調査事業の報告をいたしました。本報告書では調査事業の報告に加えて、基本設計についての報告をいたします。

鷹山は近い将来、必ず復活を果たされ、その暁には重要無形民俗文化財「祇園祭の山鉾行事」を構成する山鉾のひとつになります。そのためには、保存団体である祇園祭山鉾連合会が主導して基本設計を策定する必要がありました。

これを受け、今後は鷹山保存会の事業として実施図面（具体案）を作成しつつ、手近なところから随時復興していかれることになろうかと思えます。この事は、お町内や鷹山保存会のみならず、祇園祭関係者や京都府市民さらに全国民からの期待を背負っておられる訳ですので、やりがいのある意義深い事業になる事と存じます。

近い将来、都大路を豪華絢爛に巡行される鷹山の雄姿を思い浮かべる時、感慨一入のものが御座います。

1日も早い復興実現と鷹山保存会の益々のご繁栄を祈念申し上げますと共に、本日まで復興計画書作成のためにご尽力頂きました委員の先生方や京都市文化財保護課の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

平成30年6月

公益財団法人祇園祭山鉾連合会
理事長 岸本 吉博

はじめに

鷹山が元治元年（1864）の蛤御門の変で罹災してから150余年。ほとんど断絶というべき時間が過ぎたが、幸いにも、鷹山の主体である鷹狩の人形3体が罹災を免れ、町の人々は祇園祭になるとそれを町内で飾って、その歴史をつなぎ復活への希望を暖めてきた。その願いは平成28年（2016）1月の公益財団法人認定を得て具体化し、同年4月には、祇園祭山鉾連合会への加入が認められ復活へと前進した。

周知のように、「京都の祇園祭の山鉾行事」は国の重要無形民俗文化財であり、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。山鉾巡行への鷹山の復活は、自動的に指定・登録の文化財として「京都祇園祭の山鉾行事」の一翼をになうことになる。その故に、復活される鷹山は形式・構造はもとより、現行の山鉾に比肩するグレードと品格を保持するものでなければならない。

これらのことを実現するためには、山鉾に関わる資料を博捜し学術的検討を尽くして、文化財としての価値を担保する取り組みが不可欠である。

そしてそれは、祇園祭山鉾連合会も鷹山保存会も十分に認識されているところであった。そこで、祇園祭山鉾連合会は、まず鷹山の遺品類や、鷹山に関する文献史料、絵画史料、類例の山鉾、その他の資料から、登場から中断までの歴史的展開を丁寧にとり、往時の姿を忠実にイメージできる、学術的な調査研究に着手し、そのために鷹山調査委員会が組織された。この調査研究事業は、文化庁の補助事業として実施され、平成30年3月に報告書が刊行された。

続いて、祇園祭山鉾連合会では鷹山基本計画策定委員会を立ち上げ、鷹山調査委員会で検討された最新の調査成果を反映させながら、鷹山保存会も交えて復興に向けた基本計画を検討してきた。

鷹山に関わる資料は文献史料に加え絵画史料にも恵まれており、鷹山の主体である鷹狩りを表す3体の御神体人形が受け継がれている。この3体の鷹狩りの人形を尊重することが復活の基本となるが、それを休み山になった文政10年（1826）の曳山の形態とどのように一体化するかが課題であった。そのためには当然ながら、豊富な史・資料の検討が不可欠である。委員長の役割は、その検討を踏まえ各委員の多様な意見を十二分に引き出したうえで、総合的な検討を重ね、最善の復原案を策定することにある。身に余る課題であったが、委員各位の積極的な協力を得て、基本設計図と復原想定図の作成を行うことができた。

本書はそれらの検討協議の過程を含む鷹山復原への基本設計の調査報告書であるが、その議論の前提には鷹山調査委員会による調査成果が重要であるため、その報告書の再録もおこなった。

曳山としての鷹山本体の復原は、策定された基本設計図にもとづいて着々と進められるであろう。しかし、屋形部の塗りや飾り金具、胴掛け・見送・水引等の懸装品の

新調などなど、ベストな仕様と施工による復原想定図を目指す具体的な段取りは今後の課題である。完成に向けての鷹山保存会と祇園祭山鉾連合会のさらなる真摯な取り組みに期待したい。

平成 30 年 6 月

鷹山基本計画策定委員会
委員長 植木 行宣

目次

往時の鷹山（復原図）	
ご挨拶	1
はじめに	3
目次	5
凡例	7
第1章 鷹山の歴史	9
1 鷹山の歴史 一山の形態変化を中心に一	10
2 絵画史料からみた鷹山	18
第2章 遺品類調査報告	23
1 概要	24
(1) 現存資料 目録	25
(2) 現存資料 写真	27
2 御神体人形 木部	32
3 御神体人形 衣装	36
4 金工品	48
第3章 関連調査報告	51
1 岩戸山・南観音山・北観音山	52
2 現存する曳山の構造比較図	59
3 鷹山模型	70
4 大津祭・西王母山見送幕	72
第4章 基本設計案	73
総論	74
1 木部	75
2 御神体人形	89
3 懸装品	96
4 金工品	105
第5章 史料編	109
鷹山関連年表	110
1 絵画史料	113
(1) 鷹山に関する絵画史料一覧表	114
(2) 鷹山に関する絵画史料	115
2 文献史料	119
(1) 鷹山に関する文献史料一覧表	120
(2) 鷹山に関する文献史料	180

(3) 御神体人形意匠対照表	182
(4) 懸装品意匠対照表.....	184
附1 鷹山調査委員会の全記録.....	186
附2 鷹山基本計画策定委員会の議事録.....	192
放鷹への歩み.....	232
主要参考文献.....	236
次のステップへ～むすびにかえて	238

凡例

*本書は、重要無形民俗文化財「京都祇園祭の山鉾行事」の保護団体である公益財団法人祇園祭山鉾連合会が、公益財団法人鷹山保存会からの要請を受けて、同保存会の全面的な協力のもと、平成28年度から平成30年度にかけて、実施した鷹山基本設計プロジェクトの成果報告書である。

*鷹山基本設計プロジェクトのため、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が鷹山基本計画策定委員会を組織した。委員会の構成は以下の通り（平成30年6月現在）。

委 員	◎植木 行宣	元京都学園大学教授
	小嵯 善通	成安造形大学教授
	○岸本 吉博	公益財団法人祇園祭山鉾連合会理事長
	久保 智康	京都国立博物館名誉館員
	林 駒夫	重要無形文化財保持者（桐塑人形）
	福井藤次郎	公益財団法人祇園祭山鉾連合会副理事長
	藤井 健三	西陣織会館顧問
	吉田 雅子	京都市立芸術大学教授
		特定非営利活動法人京町家再生研究会
		（◎は委員長、○は副委員長）

協 力 者 中川 未子 よろずでざいん視覚伝達デザイナー
オブザーバー 公益財団法人鷹山保存会

京都府教育庁指導部文化財保護課
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

事 務 局 公益財団法人祇園祭山鉾連合会

事務局支援 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

（村上忠喜〈平成30年3月まで〉、安井雅恵、福持昌之、山下絵美、
今中崇文〈平成30年4月から〉）
一般社団法人システム科学研究所

*本書の第1～3、5章は、公益財団法人祇園祭山鉾連合会が、文化庁の平成28年度文化芸術振興費補助金（文化遺産を活かした地域活性化事業）の助成を受けて実施した「記録作成・調査研究事業—祇園祭の休み山「鷹山」調査」及び、平成29年度文化遺産総合活用推進事業（文化芸術振興費補助金）の助成を受けて実施した「調査研究事業—祇園祭の休み山「鷹山」調査研究および報告書作成」の成果報告書（鷹山調査委員会編『祇園祭鷹山調査報告書』祇園祭山鉾連合会、2018年3月）を加筆・訂正し、再録したものである。

*本文中の[絵画（数字）]、[文献（数字）]はそれぞれ第5章「史料編」1-（1）「鷹山に関する絵画史料一覧表」、同2-（1）「鷹山に関する文献史料一覧表」の通し番号に対応し、[資料（数字）]は第2章「遺品類調査報告」1-（1）「現存資料 目録」の通し番号に対応する。

*文責は、論考等についてはそれぞれ文頭に示し、表等についてはそれぞれ凡例中に記した。

